

文学部教員研究活動一覧

(2022年度)

石田 友梨

著書

1. 一般財団法人人文情報学研究所（監修）、
石田友梨・大向一輝・小風綾乃・永崎研
宣・宮川創・渡邊要一郎（編）『人文学
のためのテキストデータ構築入門：TEI
ガイドラインに準拠した取り組みにむ
けて』文学通信、2022年8月、424頁（石
田友梨「Transkribusを用いたTEIの人
名タグ付きテキストの機械学習による
自動人名抽出：ジャアファル・ブン・イ
ドリース・カッターニー『目録』を例に」
302-308頁）

研究発表

1. 石田友梨「イブン・アラビー『叡智の台座』
とその注釈書に対するテキスト計量分
析」、情報処理学会第129回人文科学と
コンピュータ研究発表会、2022年5月21
日、オンライン
2. 石田友梨「食品表示ラベルの画像認識に
よるハラール判定支援アプリの開発」日
本宗教学会第81回学術大会、2022年9月
11日、オンライン
3. Ishida, Yuri. “Developing Digital
Materials to Learn Islam in Japan,”
Digital Technologies for Islamic
Education and Humanities Research,
7th December, 2022, International
Islamic University Malaysia

4. 石田友梨「「イスラーム×デジタル」教材
の開発と課題」情報知識学会第27回情報
知識学フォーラム「人文学テキストを通
じた研究データ共有」、2022年12月18日、
オンライン

5. 石田友梨「デジタル技術に興味をもつ人
文系院生が受けたい授業」DHフェス
実行委員会DHフェス2023、2023年2月
23日、オンライン

6. 石田友梨「プログラム専門科目について：
「文化の新しい価値を生む科目群」の開
発」「教育学×データサイエンスで人間・
社会・文化の未来を拓く先駆者養成クロ
スプログラム」キックオフシンポジウム、
2023年2月24日、岡山大学

7. Ishida, Yuri. “Data-driven Islamic
Studies with Automatic Extraction of
Data from Arabic Texts,” Integration
of Human Sciences and Digital
Technologies, 11th March, 2022,
University of Shizuoka

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 石田友梨「「イスラーム×デジタル」教材
の開発と課題」『情報知識学会誌』32巻4
号、2022年、420-423頁

稲月 聡子

著書

1. 隈元みちる編著『心理アセスメントを生

活につなげる協働的フィードバック—ウェクスラー式知能検査を用いた手引き—』岡山大学出版会、2023年3月、107頁（稲月聡子、「コラム：検査内容をフィードバックでいかに伝えるか？—わかりやすさと倫理的責任の間で—」、「コラム：検査結果を“きちんと説明する”の先にあるもの」、50-52、73-75頁、（合計6頁））

論文

1. 稲月聡子・工藤昌孝・隈元みちる「アクティヴ・イマジネーションと他技法の比較—絵の使用や物語制作をめぐる—」、『岡山大学文学部紀要』第75号、2022年12月、29-41頁
2. 稲月聡子「森井論文へのコメント—読者が追体験できる事例報告をめざして—」、『日本福祉大学心理臨床研究センター紀要』第17号、2022年12月、75-81頁
3. 稲月聡子「臨床心理学的視点を生かした子育て支援—私立幼稚園における発達相談の実践より—」、『岡山大学臨床心理学論集』第20号、2022年12月、31-35頁

研究発表

1. 稲月聡子・坂井朋子・鈴木志乃「マテリアルとしての日常の語り—小さなやりとりに見出される神話的空間、神話的時間」、日本ユング心理学会第10回大会、2022年6月、AP大阪淀屋橋
2. 廣澤愛子・稲月聡子「かつて暴力に晒されてきた児童にとって暴力はどのような意味を持つのか：児童福祉施設で働く職員へのインタビュー調査から」、日本心理学会第87回大会、2022年9月、オンライン
3. 土井裕貴・稲月聡子「小学校教員への協働的なWISC-IVの結果のフィードバック

における探索的研究—スクールカウンセラーの立場から」、日本心理臨床学会第41回大会、2022年9月、オンライン

4. 廣澤愛子・稲月聡子「暴力の連鎖を防ぐ「環境及び他者の関わり」に関する研究—施設入所児童の暴力に対する職員の在り方・対応—」、日本子ども虐待防止学会第28回大会学術集会ふくおか大会、2022年12月、福岡国際会議場

植村 玄輝

著書

1. 廖欽彬・河合一樹『危機の時代と田辺哲学——田辺元没後60周年記念論集』、法政大学出版社、2022年、474頁（植村玄輝「田辺の潜在的な競合相手としてのフッサールの社会存在論——有意義な比較のための序説」206-227頁）
2. Íngrid Vendrell Ferran, *Else Voigtländer: Self, Emotion, and Sociality*, Springer, 2022, IX+245 pages. (Genki Uemura, “Between Love and Benevolence. Voigtländer, Pfänder, and Walther on the Phenomenology of Sentiments”, pp. 71-88.)
3. François-Xavier de Vaujany, Jeremy Aroles, & Mar Perézts, *The Oxford Handbook of Phenomenologies and Organization Studies*, Oxford University Press, 2023, 784 pages (Genki Uemura, “Phenomenology in Japan. A Brief History with Focus on its Reception”, pp. 555-572)
4. 荒畑靖宏・吉川孝『あらわれを哲学する——存在から政治まで』、晃洋書房、2023年、300頁（植村玄輝「像はどのよう

にあらわれるのか——フッサールの像意識論を解釈して擁護する」85-100頁)

論文

1. Genki Uemura, “To-You-Ness. A Phenomenological Theme from Reinach.” In *New Yearbook for Phenomenology and Phenomenological Philosophy*, vol. XIX, 2022, pp. 69-89.
2. 植村玄輝「コンラート＝マルティウスの現象学的実在論」、『プロセス研究』第22号(2022)、49-63頁。

研究発表

1. 植村玄輝、「フッサールの価値論」、科研費シンポジウム「20世紀初頭価値論が残したもの・その歴史的な限界と射程」、JSPS科研費20K00119「20世紀初頭価値哲学の反自然主義—現代価値論の再考のために」(代表者：九鬼一人)、2022年4月10日、オンライン。
2. Genki Uemura, “The Early Husserl on Metaphysics and Epistemology.” *Alternative Approaches to Phenomenology and Metaphysics*, Waseda University, 24 February 2023.

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. Genki Uemura, “Husserl, Edmund.” In M. Sellers, S. Kirste (eds.), *Encyclopedia of the Philosophy of Law and Social Philosophy*, Springer, 2022. https://doi.org/10.1007/978-94-007-6730-0_995-1

大杉 洋

論文

1. 「ゲーテにおけるGrenzeについて」、『岡山大学文学部紀要』第75号、令和4年12月16日、43-55頁

久保 蘭愛

論文

1. 久保蘭愛・山本友美「椎葉方言の形容詞—6地点の共通点と相違点、形容詞語幹+サニ(シトル)—」、椎葉村方言語彙集編集委員会編『椎葉村方言語彙集』、2022年4月、43-52頁
2. 「ゴンザのロシア資料に現れる複数を表す接辞—異なる言語間における過剰翻訳—」『ウズベキスタンと日本の文化的関係の現在の問題：社会における言語、文学、翻訳およびプロセス』論文集、タシケント国立東洋学大学・筑波大学人文社会系、2022年5月、110-115頁
<https://www.oriens.uz/conference/zbekiston-va-poni-madaniy-alolarining-dolzarb-masalalari-til-adabit-tarjima-va-jamitdagi-jaranlar/>

ショートノート

1. 下地理則・松浦年男・久保蘭愛・平子達也・小西いずみ「コロナ禍における方言研究」『社会言語科学』第25巻第1号、2022年9月、134-141頁

栗林 裕

論文

1. 「チュルク諸語の事態把握表現の数量的比較に向けての試論」久保智之・菅原睦・江畑冬生・大崎紀子(編) *Contribution to the Studies of Eurasian Languages series (CSEL) Vol. 23* 2022, pp. 65-82. [審査有]
2. Turkish textbooks used in Japan and related problems. Funda Güven, Jeannette Okur (eds.) *Teaching Turkish and Turkic Languages during*

the Pandemic: Past, Present and Future Directions. Proceedings of the 6th AATT Conference. Madison, Wisconsin: Turko-Tatar Press. 2022, pp. 219-239.
[審査有]

研究発表

1. Japonlara Türkçe Öğretiminde Zor Olan Bazı İfade ve Kelimeler. 6th International Symposium of Limitless Education and Research (ISLER 2022) (Ankara: Online Conference Keynote Speaker 令和4年6月16日) [招聘]
2. 「チュルク諸語のナルの表現の翻訳対照」 ナル表現研究会 (令和5年3月2日)、新横浜グレイスホテル。
3. 「言語表現のタイプの対照研究 ～トルコ語と日本語～」2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」(Online Conference 令和5年3月29日)、京都大学

齋藤 圭介

論文

1. 「大学教員ポストを目指す公募戦士が身に付けるべきスキルと戦略」『新社会学研究』(7)、2022年10月、191-196
2. 「解題「理論という実践」」『年報社会学論集』(35)、2022年7月、1-4

研究発表

1. 「出生前診断を経た後期中絶と男性——生殖補助技術が促す男性の当事者化とその争点」NWECフォーラム2022「男女共同参画推進フォーラム」、2022年12月17日、オンライン
2. 「生殖補助技術がもたらす男性の当事者

化——男性不妊と選択的中絶をめぐる論点と争点」第95回日本社会学会大会(シンポジウム：生殖補助技術と多様化する親密性のデザイン——親密性を再定義する実践の検討)、2022年11月13日、追手門学院大学

3. 「選択的中絶と男性をめぐる論点と争点」国際ジェンダー学会、2022年9月3日、実践女子大学

住岡 恭子

論文

1. 住岡恭子(2023). 諦めの悪さも役にたつ 横浜国立大学大学院教育学教育学研究科教育相談・支援総合センター研究論集第22号、2023年2月、75-77

研究発表

1. 瀧北文・山内裕斗・小野遥香・草野結子・河野穂波・島津柊・月輪花菜・住岡恭子(2022). 大学生が持つ大学教員イメージ—自由記述の分類・整理による検討— 日本心理学会第86回大会
2. 住岡恭子(2022). 追跡調査による大学生の「知覚された無気力」の経年変化の検討 日本教育心理学会第64回総会
3. 住岡恭子(2022). 思春期の自閉スペクトラムを生きる 日本精神分析学会第68回大会

清家 章

論文

1. 清家章「吉備の巨大古墳」『大学的岡山ガイド—こだわりの歩き方』昭和堂 2023年3月31日：111-123
2. 清家章・坂本稔・瀧上舞「広島県府中市山ノ神1号古墳の年代学的調査」『国立

歴史民俗博物館研究報告』第237集 国立歴史民俗博物館 2022年11月：pp. 119-125

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 清家章「弥生・古墳時代の副葬品と性差」『とっとり考古学フォーラム2021 古代の女性史—卑弥呼から伊福吉部徳足比売臣まで—』2023年2月 鳥取県埋蔵文化財センター：9-18

竹島あゆみ

論文

1. 「体系期ヘーゲルにおける承認—『法の哲学要綱』（1821）を中心に・2」、『岡山大学文学部紀要』75号、2022年12月、1-11頁
2. 「『法の哲学要綱』第一部「抽象法」における所有の問題」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』、55号、2023年3月、45-54頁

研究発表

1. “Person, Thing, Body: Analysis of Property in Hegel’s *Philosophy of Right*”, Internationale Tagung zur Hegelschen Philosophie mit dem Hauptvortrag: Professor Klaus Vieweg, 2022. 9. 17., Hiroshima University

田中 共子

著書

1. 田中共子『異文化接触の心理学-AUC-GS学習モデルで学ぶ文化の交差と共存』ナカニシヤ出版、2022.4.10、全103頁
2. 多文化関係学会編『「縁側」知の生成に向けて—多文化関係学という場の潜在力—』明石書店、2022.10.15、全289頁(田中

共子、第Ⅱ部第6章「異文化滞在者の健康心理学的支援としての異文化間食育の提案」119-136

3. 日本健康心理学会編『実践!健康心理学』北大路出版、2022.11.10、全193頁(田中共子(編集委員長)、「まえがき」i-ii、第一部実践編「健康ハイリスク集団としての留学生のケア」78-81)

論文

1. 三宅沙侑美・田中共子「介護現場での介護士のソーシャルスキルの観察研究」『アジアの未来へー私の提案 第6回アジア未来会議優秀論文集 Vol.6B』(関口グローバル研究会編) ジャパンタイムズ出版、全215頁、2023.3.22、139-146
2. 田中共子・沼柊門「健康状態の低下した日本人高齢者における適応的受容と幸福観—M-GTAによる中核・拡張モデルの試案—」応用心理学研究48(3)、2023.3.31、158-167
3. 田中共子「AUC-GS学習モデルに基づくオンライン版エクササイズへの興味と活用認識」社会文化科学研究科紀要55、2023.3.27、55-60
4. 田中共子「AUC-GS学習モデルに基づく異文化間教育オンライン版の学びに関する検討」留学生教育27、2022.12、76-83
5. 趙師哲・田中共子「日本在住の中国出身長期滞在者における文化変容方略—心理的適応との関連から—」多文化関係学19、2022.12、81-99
6. 田中共子・渡邊真弓「逆カルチャーショックにおける弓引きモデルの検討」文化共生学研究22、2022.12.23、15-26
7. Sachiko Nakano, Tomoko Tanaka and Koji Mikushi “Cross-cultural Social Skills

- Instruction and Indirect Expressions: Psychoeducation in Japan's High-Context Culture." *IAFOR Journal of Psychology & the Behavioral Sciences*, Volume 8 Issue 2, 2022, Autumn, 19-35
8. 趙師哲・田中共子「日本在住の中国出身者を対象とした異文化適応研究の動向」The 6th Asia Future Conference Proceedings Compilation of full papers and short papers, 2022.9.10, 1492-1501
 9. 田中共子「逆カルチャーショックの発生過程に関する3事例の検討」The 6th Asia Future Conference Proceedings Compilation of full papers and short papers, 2022.9.10, 1595-1597
 10. Tomoko Tanaka, Ai Takahama and Yukina SHIMODA "Examining Cultural Distance and Intercultural Adaptation among International Students in Japan by Using Six Varieties of Cultural Distances Concerning Individualism-Collectivism and High/Low Context Communication." *The Educational Review, USA*, 6(6), 2022.6.3, 192-208
 11. Sayumi Miyake, Tomoko Tanaka & Sachiko Nakano "A Case Study of Caregivers' Social Skills Use in Practice: Interviews and an Observation about Interactions with Care Recipients." *The Asian conference on Psychology & the Behavioral Conferences, 2022 Official Conference Proceedings*, 2022.5.16, 83-97
 12. Sachiko Nakano & Tomoko Tanaka "Relationship Between Religiosity and Receptive Attitude Toward Muslims Among Japanese Students." *The Asian conference on Psychology & the Behavioral Conferences, 2022 Official Conference Proceedings*, 2022.5.16, 65-81
 13. Tomoko Tanaka "Will the Bow-pulling Model Be Repeated? : Analysis of Cases of Reverse Culture Shock During Two Overseas Stays." *The Asian conference on Psychology & the Behavioral Conferences, 2022 Official Conference Proceedings*, 2022.5.16, 99-108
- 研究発表
1. Shizhe Zhao & Tomoko Tanaka "Intercultural adaptation among long-term Chinese residents in Japan: A study examining acculturation, acculturation stress and demographic variables." The 13th Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences, 2023.3.31-4.3, Online
 2. Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto, Yoichi Yamano and Tomoko Tanaka "Effects of Intercultural Training for Foreign Care Workers in Japan: A Short-term Longitudinal Study." The 13th Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences, 2023.3.31-4.3, Online
 3. 畠中香織・山本恵美子・山野洋一・田中共子「日本人との協働文化の構築に向けた在日外国人ケア労働者への異文化間ケア教育—職場ストレス緩和効果の検討—」第15回文化看護学会学術集会、2023.3.19、於千葉県立保健医療大学幕張キャンパス(千葉市)
 4. 田中共子「パネルディスカッション：With/Post コロナ社会と人の生活—生活

- 科学からの提言—」生活科学系コンソーシアム第12回シンポジウム、2022.12.11、オンライン
5. 山本恵美子・畠中香織・田中共子「施設系介護事業所の安全文化構築に向けた連携力の探索—管理者・看護師・介護士の協働による取り組みから—」日本健康心理学会第35回大会、2022.11.20、於東北学院大学(仙台)
 6. 企画：日本健康心理学会新型コロナウイルス感染症対策検討ワーキンググループ、司会：田中共子「新型コロナウイルス感染症に関連する健康心理学的研究—新型コロナウイルス感染症に関連する健康心理学的研究助成の成果報告—」日本健康心理学会第35回大会、2022.11.19、於東北学院大学(仙台)
 7. 企画：日本健康心理学会「実践!健康心理学」編集委員、指定討論：田中共子「「実践!健康心理学」—執筆者と語り合う、実践の豊かな可能性—」日本健康心理学会第35回大会、2022.11.19、於東北学院大学(仙台)
 8. 趙師哲・田中共子「中国出身長期滞在者の日本語運用への評価に関する探索—外国人との接触が少ない母語話者の場合」多文化関係学会第21回年次大会、2022.10.15、オンライン
 9. 田中共子「AUC-GS学習モデルに基づく教育による学びの活用可能性—パフォーマンスによる分析—」多文化関係学会第21回年次大会、2022.10.15、オンライン
 10. 迫こゆり・田中共子「COVID-19禍における日本人留学生のこころの危機対応-海外での緊急事態対処から帰国後の再出発-」日本心理臨床学会第41回大会、2022.9.2-25、オンライン
 11. 三宅沙侑美・田中共子「介護現場での介護士のソーシャルスキルの観察研究」第六回アジア未来会議、2022.8.27-28、オンライン
 12. 田中共子「逆カルチャーショックの発生過程に関する3事例の検討」第六回アジア未来会議、2022.8.27-28、オンライン
 13. 趙師哲・田中共子「日本在住の中国出身者を対象とした異文化適応研究の動向」第六回アジア未来会議、2022.8.27-28、オンライン
 14. Shizhe Zhao & Tomoko Tanaka “Acculturation Strategies of Chinese Highly-Skilled Professionals in Japan: A Case Study of 9 people Who Graduated from a Japanese University.” The Online Seminar on Urban and Rural Cultural and Social Transition and Youth Development in East Asia, 2022.8.27, Online
 15. 田中共子・中野祥子「社会通念と外国人への対応に焦点をあてた異文化間ソーシャルスキル学習—在日留学生を対象とした個別セッションの試み—」異文化間教育学会第43回大会、2022.6.11-12、於立命館大学衣笠キャンパス
- その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 異文化間教育学会編著『異文化間教育事典』明石書店、2022.6.20、全284頁（田中共子、Ⅲ-1-5「異文化間ソーシャルスキル」183）
 2. 岡山大学文明動態学研究所編『大学的岡山ガイド—こだわりの歩き方』昭和堂、2023.3.31、全337頁（田中共子、コラム「追跡！ごみと資源の行方—多文化共生のま

ちづくりの中で」334-337)

田中 秀和

論文

1. Tanaka, Hidekazu. Against verb-stranding VP-ellipsis in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics*, 32, February 24, 2022, pp. 1-28.

研究発表

1. 「Elliptical Constructions in Japanese」、Okayama Linguistics Forum、2022年4月28日、ノートルダム清心女子大学

塚本 千秋

論文

1. 心理職養成と精神医学教育—迷い深まるばかりなり—、『岡山大学臨床心理学論集』第20号、2022年12月、pp17-22

その他 (エッセイ)

1. バンダのバリエーション (5) バンダ・ソ・クール (その1). 『精神医療』第5号、2022年4月、pp96-98
2. バンダのバリエーション (6) バンダ・ソ・クール (その2). 『精神医療』第6号、2022年7月、pp109-110
3. バンダのバリエーション (7) バンダ・ソ・クール (その3). 『精神医療』第7号、2022年10月、pp79-82
4. バンダのバリエーション (8) バンダ・ソ・クール (その4). 『精神医療』第8号、2023年1月、pp100-103

土口 史記

著書

1. 中西竜也・増田知之の編『よくわかる中国史』ミネルヴァ書房、2023年2月、258頁

(土口史記、担当章「Ⅰ 文明の誕生から初期王朝の形成へ」2-7頁、「Ⅱ 春秋・戦国時代から統一秦の時代へ」8-17頁、「コラム 文書行政と簡牘」18-19頁)

2. 宮宅潔編『嶽麓書院所藏簡《秦律令(壹)》訳注』汲古書院、2023年3月、584頁(土口史記、担当章「執法」455-463頁)

論文

1. 「戦国秦漢「内史」問題補論」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』第55号、2023年3月、61-81頁

研究発表

1. Territorial Expansion and Institutional Reform in the Warring States, Qin and Early Han period, “Territorial Control in Early China” Workshop, 14 May, 2022, Institut für Sinologie, Universität Heidelberg(Online)
2. 「中国古代の木簡と竹簡」、ふくやま草戸千軒ミュージアム文化講演会、2022年6月11日、ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)
3. 「戦國到漢初“内史”問題補論」、中央研究院歴史語言研究所「國家制度與社會工作坊」、2022年8月31日、中央研究院歴史語言研究所(オンライン)
4. 「王鳴盛『十七史商榷』卷三十七「臺閣」訳注——大学院演習の経験共有を兼ねて」、アジア史連絡会第12回研究会、2023年6月3日、神戸市外国語大学・大学共同利用施設UNITY特別会議室

堤 良一

論文

1. 堤良一「日本語文法学界の展望(2018~2020) 現代語」『日本語文法』22-1: 171-179, 日

本語文法学会、2022年4月

2. 堤良一・閻琳「聞き手」としての非母語話者の容認性判断」鎌田修・由井紀久子・池田隆介（編）『日本語プロフィেশナー研究の広がり』155-168, 2022年10月、ひつじ書房

研究発表

1. 高谷由貴・堤良一「引用形式と「まとめ上げ」について～「行こう」とは言えて「行こうって」と言えないのはなぜか?～」2022年5月20日、日本語音声コミュニケーション学会2022年度春季大会（春の宵山研）における口頭発表、オンライン
2. [招待] 堤良一「指示詞+固有名詞+ガ」の「予測裏切りの意味」以外の用法について―具体例の観察を通して―」日本語文法学会第23回大会における口頭発表、2022年12月17日、オンライン

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 堤良一「平田未季（著）『共同注意場面による日本語指示詞の研究』ひつじ書房（言語編）第168巻』『語用論研究』24：179-191、2023年3月、日本語用論学会

徳永 誓子

研究発表

1. 「天台宗寺門派聖護院門跡と山伏の組織」、2022年度長野県立歴史館夏季企画展講演会、2022年8月20日、長野県立歴史館
2. 「モノノケ治療祈禱と民俗行事」、就実大学吉備地方文化研究所講演、2022年9月10日、オンライン

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「天台宗寺門派聖護院門跡と山伏の組織」『令和四年度夏季企画展 山伏 佐久の修

験 大井法華堂の世界』長野県立歴史館、2022年7月、48-50頁

2. 書評 宮家準著『備前の児島・五流修験―その歴史と伝承』『岡山地方史研究』157、2022年9月、25-31頁
3. 「中世の修験道―「児島五流」の前身」『大学的岡山ガイド―こだわりの歩き方』昭和堂、2023年3月、172-176頁

中尾 知代

著書

1. 中尾知代『戦争トラウマ記憶のオーラルヒストリー 第二次大戦連合軍元捕虜とその家族』、日本評論社、2020年7月、388頁

論文

1. 「「パターン死の行進」研究ノート」、『文化共生学研究』、22巻、2022年12月23日、27-34頁
2. 「連合軍捕虜問題：真実な和解のための一側面―『戦争トラウマ記憶のオーラルヒストリー：第二次大戦連合軍捕虜とその家族』著作紹介」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』55巻、2023年3月27日、11-29頁

その他

1. NHK『ラジオ深夜便 明日への言葉』、「戦争の記憶に耳を傾けて40年」、2022年12月11日

仲田 公輔

著書

1. 岡美穂子責任編集『つなぐ世界史1 古代・中世』清水書院、2023年3月、248頁（仲田公輔「イスラームの拡大とキリスト教世界」102-107頁）

論文

1. Revisiting the Role of the Armenians in the Creation of the theme of Lykandos. *Byzantine Cappadocia*, ed. Tomoyuki Masuda, Leiden: Alexandros Press, 2022, pp. 267-289.

研究発表

1. 「王たちがアルメニアを去って—ビザンツ併合後のヴァスプラカン (11-12世紀)」、日本ビザンツ学会第20回大会、2023年3月25日、一橋大学

その他 (翻訳、事典項目、書評等)

1. 「書評：櫻井康人『十字軍国家の研究』(名古屋大学出版会、2020年)」、『西洋史学』273、2022年6月、82-84頁。

中谷 文美

著書

1. 文明動態学研究所編『大学的岡山ガイド』昭和堂、2023年3月、368頁 (中谷文美『「アートの島」犬島に暮らすということ』、299-316頁)。

論文

1. Comment on Ofra Goldstein-Gidoni, “We are not Ikumen, we are self-reliant househusbands,” *Current Anthropology* Vol. 63, No.5, October 2022, pp.560-561.
2. 「バリ島の紋織と緋—消費される手仕事の存在価値」、『季刊民族学』183号、2023年1月、86-93頁。
3. 「伝統染織の「遺産化」と境界のポリテクス—インドネシアの事例から—」、『文明動態学』2号、2023年3月、1-17頁。(査読あり)
4. 「手仕事とジェンダー—『女の手』が意味するもの」『arts/』39号、2023年3月、36-47

頁。(査読あり)

研究発表

1. 「手仕事とジェンダー—『女の手』が意味するもの」民族藝術学会第38回研究大会シンポジウム『「手仕事」とarts/：人類の創造的ないとなみを探る』招待講演、2022年4月16日、オンライン開催。
2. 「手仕事のオーセンティシティ：「プリント化」する伝統染織品が投げかける問い」日本文化人類学会第56回研究大会分科会主催、2022年6月4日、明治大学。
3. 「伝統織物がプリント化するとき—インドネシア、バリ島紋織におけるオーセンティシティとアイデンティティ」日本文化人類学会第56回研究大会研究報告、2022年6月4日、明治大学。
4. 「『女』『男』カテゴリーのちがいが意味するもの」日本学術会議主催シンポジウム「人類学者と語る人間の『ちがひ』と差別」、招待講演、2022年11月19日、一橋講堂。

その他 (翻訳、事典項目、書評等)

1. 森本一彦他編『リーディングス アジアの家族と親密圏：第1巻 家族イデオロギー』有斐閣、2022年3月、456頁 (『国家イデオロギズム—『新秩序』体制下のインドネシアにおける女性性の領有と歪曲』ジュリア・スルヤクスマ著、岩島史・中谷文美訳、93-111頁)。

東野 将伸

著書

1. 岡山大学文明動態学研究所編『大学的岡山ガイド—こだわりの歩き方』昭和堂、2023年3月、368頁 (東野将伸「江戸時代の備前・備中・美作」、177-189頁)

論文

1. (共著) 東野将伸・渡世理彩「備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介—経済・流通・キリスト教—(二)」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』54、2022年12月、(1)-(23)頁

2. 「岡山県における文化財保全の取組と今後の課題—大学関係者の立場から—」、『日本史研究』725、2023年1月、71-82頁

研究発表

1. 「史料紹介：備中国小田郡笠岡村浅野家文書の経営・流通関係史料」、岡山地方史研究会7月例会、2022年7月、岡山大学
2. (講演)「オープニングトーク」、令和4年度企画展 池田家文庫絵図展「岡山城と人々の暮らし」オープニングトーク、2022年10月、岡山シティミュージアム
3. 「近世後期～明治初期における土地売買と「屋敷成」把握—摂津国兎原郡御影村を事例に—」、岡山地方史研究会2月例会、2023年2月、岡山大学

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. (書籍1項目の分担執筆) 岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川穰・告井幸男編著『論点・日本史学』ミネルヴァ書房、2022年8月、388頁(東野将伸「地方商人の商取引 地方商人はどのようにして取引したのか」、184-185頁)
2. (図録解説執筆)『令和4年度企画展 池田家文庫絵図展「岡山城と人々の暮らし」』岡山大学附属図書館、2022年10月、22頁(東野将伸「解説」・「出展資料解説」、1-17頁)
3. (書評)「書評 岩橋勝編著『貨幣の統合と多様性のダイナミズム』、『社会経済史学』88(3)、2022年11月、67-70頁

4. (書評)「書評 森本幾子著『幕末・明治期の廻船経営と地域市場—阿波国撫養山西家の経営と地域—』、『経営史学』57(4)、2023年3月、68-71頁

本田 晃子

著書

1. ポスト・ソヴィエト文学研究会編『現代ロシア文学入門』、東洋書店新社、2022年9月(本田晃子「コムナルカ」235頁)

論文

1. 「革命と住宅 第5章 プレジネフカ——ソ連団地の成熟と、社会主義住宅最後の実験(後篇)」、『ゲンロンβ』72号、2022年4月、オンライン雑誌のため頁数なし

研究発表

1. 「ロシアは誰に住みよいか：19世紀末から21世紀初頭までのロシア住宅史概観」、SRCセミナー〈ロシア・ソ連映画のなかの住宅〉、2023年3月14日、京都大学
2. 「住むに値しないひと：ソ連映画が描く住宅格差」、オンライン・シンポジウム「各国映像メディアにおける団地表象の比較研究」、2023年3月11日、オンライン
3. Can Love be Communalized? Life in public apartments in early Soviet films, The 11th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, 2022年12月11日、オンライン
4. 「女は共有可能か?—初期ソ連映画が描いた共同住宅コムナルカの性愛」表象文化論学会、2022年11月12日、関西大学

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 鴻野わか菜、本田晃子、上田洋子、鼎談「ユートピアの裏側で——コムナルカと

ソ連の記憶」、『ゲンロン』13号、2022年10月、268-299頁

松岡 弘之

著書

1. 岡山大学文明動態学研究所編『大学的岡山ガイド—こだわりの歩き方』昭和堂、2023年3月、360頁（松岡弘之「長島愛生園と邑久光明園—「自治」からみたハンセン病」215-229頁）

論文

1. 「昭和初期のハンセン病療養所における軽快退所事例について —第五区連合九州療養所の場合—」、『文明動態学』2巻、2023年3月、32-43頁

研究発表

1. 廣川和花、高野弘之、野上玲子、松岡弘之「明治40年法律第11号「癩予防ニ関スル件」（1907年）下での九州療養所入所者の家族関係の考察」、第95回日本ハンセン病学会学術大会 2022年6月11日、オンライン
2. 野上玲子、廣川和花、高野弘之、松岡弘之「開所期九州療養所入所者の救護費徴収に関する一考察」、第95回日本ハンセン病学会学術大会、2022年6月11日、オンライン
3. パクミンジョン、松岡弘之「入所者の住宅からみた長島愛生園の歴史」、第14回RIDCマンスリー研究セミナー（岡山大学文明動態学研究所）、2022年7月20日、オンライン
4. 「コメント「学生と考える西日本豪雨」によせて」、2022年度岡山史料ネット活動報告会、2022年8月6日、きらめきプラザ（岡山市）

5. 「教養教育科目「アーカイブズ入門」という試み」、第48回全史料協全国（滋賀）大会、2022年10月27日、オンライン

6. 「「大東亜共栄圏」とハンセン病医たち」、2022年度岡山大学文学部プロジェクト研究・研究会、2023年3月8日、岡山大学
その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「田中報告を聞いて」、『日本史研究』716号、2022年4月、68-71頁
2. 廣川和花、高野弘之、野上玲子、松岡弘之「明治40年法律第11号「癩予防ニ関スル件」（1907年）下での九州療養所入所者の家族関係の考察」、『日本ハンセン病学会雑誌』91巻1号、2022年5月、36頁
3. 野上玲子、廣川和花、高野弘之、松岡弘之「開所期九州療養所入所者の救護費徴収に関する一考察」、『日本ハンセン病学会雑誌』91巻1号、2022年5月、37頁
4. 「和志美最堂のみた外島保養院—「一河の流れ」を読む」、『ふれあい福祉だより』23号、2022年12月、24-33頁
5. 「第90回瀬戸内集談会講演 ハンセン病関連資料の継承のために（上）」、『愛生』76巻6号、2022年12月、18-26頁
6. 「第90回瀬戸内集談会講演 ハンセン病関連資料の継承のために（下）」、『愛生』77巻1号、2023年2月、13-20頁
7. 「仕事に役立つ公文書—庁内利用をめぐって」、『広文協通信』42・43合併号、2023年3月、5-8頁

松村圭一郎

著書

1. 『小さき者たちの』ミシマ社、2023年1月、206頁
2. アノニマ・スタジオ編『ヒトゴトにしな

- い社会へ』アノニマ・スタジオ、2022年10月、128頁(松村圭一郎「つながる先は、開かれている」40-44頁)
3. せんだいメディアテーク編『つくる〈公共〉』岩波書店、2023年2月、220頁(松村圭一郎「コミュニティ」6-9頁)
7. 「書評 高野秀行著『語学の天才まで1億光年』」、東京新聞／中日新聞、2022年10月29日
8. 「ひと・まち・しごと」朝日新聞岡山地方版、2022年10月から月1回連載

論文

1. 「ほんとにアナキズムは可能なのか?」、『文学界』76巻4号、2022年4月、28-31頁

研究発表

1. 「『開発』とは何か? エチオピアの経験から」、MPJ Youth シンポジウム「アフリカを問う。～TICAD8を前に考える『開発』とは何か?」、2022年8月17日、JICA 地球ひろば国際会議場
2. 「野蠻と文明の所有論」日独文化研究所第30回公開シンポジウム、2022年10月10日、京都大学

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「越境的ダイバーシティ論」『英語教育』71巻1号から4号(2022年4月号から7月号)まで連載
2. 「書評 岡田憲治著『政治学者、PTA会長になる』」北日本新聞(2022年5月7日)ほか
3. 「解説 ふつうの日常がもつ普遍性」塚本学著『生きることの近代史』平凡社ライブラリー、2022年6月、319-326頁
4. 「書評 見砂ちづる著『センタンとリトラル ブラジルの10年』」、東京新聞／中日新聞、2022年7月16日
5. 「あらたな知の拠点をつくる 人類学者の視点から」『月刊 先端教育』34巻から39巻(2022年8月号から2023年1月号)まで連載
6. 「政と祭りごと」『潮』764号、2022年10

光本 順

著書

1. 菊地夏野、堀江有里、飯野由里子編『クイア・スタディーズをひらく』3、晃洋書房、2023年3月、244頁(光本 順「『双性の巫人』という過去の身体を読む」1-21頁)

論文

1. Mitsumoto, Jun., Ryan, Joseph., Yamaguchi, Yuji., and Seike, Akira. LiDAR survey of the fifth-century Tsukuriyama mounded tomb group in Japan, *Antiquity*, 97 (391): e6. 2023年2月.
2. 「分銅形土製品の地域的展開と出雲・吉備」『島根県古代文化センター研究論集』30、島根県教育委員会、2023年3月、45-52頁
3. 光本 順、ライアン・ジョセフ、山口雄治「岡山県津山市佐良山古墳群内におけるUAV-LiDAR測量」『日本情報考古学会講演論文集』26、2023年3月、22-27頁

研究発表

1. 光本 順、山口雄治、ライアン・ジョセフ「岡山県の古墳を対象とするドローンを用いたLiDAR測量」、第40回レーザセンシングシンポジウム、2022年9月2日、福山大学
2. Tema, E., Ferrara, E., Hatakeyama T., Matsumoto N., and Mitsumoto J.

The contribution of Geosciences on the determination of the equivalent heating temperatures of ancient baked clays through magnetic measurements: The case of the Sada Nishizuka Kofun, Japan, SGI-SIMP (Italian Geological Society and Italian Society of Mineralogy and Petrology) conference. 2022年9月20日, イタリア.

3. Mitsumoto, Jun., and Ryan, Joseph. LiDAR archaeology: A revolutionary approach, 2022 BeArchaeo Second Summer School. 2022年9月27日. 岡山大学
4. 「点群から“lived space”へ—LiDAR考古学の理論的・実践的課題—」、新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明—」第8回全体会議、2023年1月8日、オンラインポスター発表
5. Weaving history with LiDAR survey: Research on the fifth-century Tsukuriyama mounded tomb group in Japan, UC Berkeley Archaeological Research Facility Brownbag. 2023年2月15日. 米国: University of California, Berkeley.

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「鳥取上高塚古墳（赤磐市）の調査成果と意義について」『教育時報』75-4、2023年3月、14-15頁

宮崎 和人

論文

1. 「「することもありうる」を述語にする文のデオンティックな側面」、『岡山大学社

会文化科学研究科紀要』55、2023年3月、1-10頁

講演・シンポジウム

1. 「日本語文法研究の課題—構文論としてのモダリティー研究—」、四川外国語大学景星講壇第二講、2022年6月8日、四川外国語大学
2. 「奥田論文から考えるモダリティーの研究の新たな段階への展望」、2022年度東アジア国際言語学会第10回大会シンポジウム、2023年2月11日、大東文化大学

本村 昌文

著書

1. 青木正人・川渕孝一編『国民の介護白書 2022年度版』日本医療企画、2022年11月、総頁数204（本村昌文、第10章「幸福な高齢期を考える—自分らしい生き方とは何か」120頁~126頁）

論文

1. 「近世日本の儒仏論争—『徒然草』の注釈書をめぐって—」、『日本文学ジャーナル』25号、2023年3月、8頁~22頁
2. 伊達宏子・本村昌文、「中国人留学生の日本政府奨学金による博士後期課程進学選択の理由—2021年度中国赴日本国留学生予備学校学生への質問紙調査—」、『日本語・日本研究』13号、2023年3月、51頁~73頁

山本 秀樹

論文

1. 「『神道大系』所収吉備津神社所蔵吉備津宮縁起二種の成立年代について—支配者の先祖の記述を避けなければならなかった事例の遡源—」、『岡山大学文学部紀要』

第75号、2022年12月、(25)-(32) 頁

研究発表

1. 「吉備津彦の鬼退治話の源流・支流・合流について—正宗文庫所蔵『備中国吉備津宮御伝記』（文政12年・1829写）を題材に一」、国文学研究資料館創立50周年記念事業／国文学研究資料館共同研究「正宗文庫の研究」：第2回正宗文庫セミナー、2022年9月10日、就実大学

遊佐 徹

論文

1. 「馮夢龍と倭寇物語（下）—「楊八老越国奇逢」を中心に—」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』54号、2022年12月、17-30 頁

研究発表

1. 「『杜子春伝』から『杜子春』へ——欲望と救済と愛の物語の形成と展開——」、第48回岡山県漢字漢文教育研究会、2022年10月5日、岡山県立岡山操山中学校・高等学校

ルヌウ・ロイック

論文

1. Renoud, Loïc. Discours, environnement, enaction : un cadre de recherche en didactique des langues étrangères. *Journée Pédagogique de la Langue Française*, 4, 2022, pp. 32-37.
2. Renoud, Loïc. Futur proche vs. futur simple : du matériel pédagogique au discours métalinguistique apprenant. *Études didactiques du FLE au Japon*, 32, 2022, pp. 76-85.
3. Renoud, Loïc. Material use in collaborative

dialogue by Japanese university students learning future tenses in French as a Foreign Language: a discourse and interaction analysis. *Canadian Journal of Applied Linguistics / Revue Canadienne de Linguistique Appliquée*, 25 (2) , 2022, pp. 71-102.

4. Renoud, Loïc. Rejouer l'oral spontané pour une grammaire située. Matériel et démarche pour « un, du, ce, le » et le contraste passé composé / imparfait. *Revue TDFLE*, 81, 2022, [en ligne].

研究発表

1. « Matériel pédagogique pour la prosodie, l'écoute active et la grammaire au niveau initial : présentation de projet (3 ans) », 日本フランス語教育学会 2022 年度大会、2022年6月11日、オンライン
2. « Vidéos d'interactions orales spontanées : activités et objectifs », フランス語教授法研究会第5回、2022年12月11日、東京東京国際フランス学園

和田 郁子

著書

1. 弘末雅士責任編集『南アジアと東南アジア ～15世紀』（岩波講座世界歴史04）岩波書店、2022年5月、293頁（和田郁子「インド洋海域史から見た南インド」275-291頁）

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 真下裕之監修（二宮文子・真下裕之・和田郁子訳注）「アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリ』訳注(11)」『紀要』（神戸大学文学部）50号、2023年3月、23-47頁